障害者雇用支援における支援の質の向上のための実践

－研修・個別相談・デモンストレーションを通じた現場実践への橋渡し－

Building an Organization with Support Technologies as a Common Language

Bridging Training and Practice through Workshops, Individual Consultation, and Demonstrations

○佐藤佳子・米田加奈・小倉玄

Yoshiko Sato・Kana Yoneda・Gen Ogura

株式会社スタートライン

Startline CO., LTD.

Key words：障害者雇用, 職業リハビリテーション, 支援の質

目的

障害者支援の現場では、支援者個人の経験や価値観に依存した属人的な支援となるリスクがある。株式会社スタートラインでは、応用行動分析（以下、ABA）、関係フレーム理論（以下、RFT）、アクセプタンス&コミットメント・セラピー（以下、ACT）等の文脈的行動科学（以下、CBS）を共通基盤として活用し、誰もが一定の質で支援を提供できる組織づくりを目指している。具体的には、社内に支援技術の研究開発および教育を担う部署を設置し、支援職に対して体系的な研修を実施している（小倉, 2025）。一方で、支援技術は専門性が高く、研修で学んだ知識を実際の支援場面で活用することに難しさを感じる職員も少なくない。そこで、新設した教育・改革チームが研修と現場実践をつなぐ取り組みを実施した。本報告では、その利用状況と受講者評価を報告し、支援技術を組織の共通言語として定着させるための実践支援のあり方を検討する。

方法

教育・改革チームにおいて、以下の２つの取り組みを実施した。

① 個別相談・デモンストレーション予約制度の導入

支援スキル確認シートに基づき、支援技術に関する個別相談およびデモンストレーションを実施した。職員が自由に予約できる１時間枠を設け、ケース支援への活用方法やスキル習得に関する相談機会を提供した。

② 具体例を交えた支援技術研修の実施

2025 年度下半期に、西日本エリアで実際に起こりうる支援場面を題材とした１時間のオンライン研修を３テーマ（「現場で活用できる ABA」、「関係フレーム理論の用語理解」、「HDML フレームワークを理解する」）で行い、研修受講後にアンケート（5 段階評価・自由記述）を実施した。

結果

個別相談・デモンストレーションの利用実績は 153 枠であった。相談内容は特定の支援技術に限定しない「全般」が最も多く、次いで「面談・カウンセリング」、「ACT」、「SAPLI 面談」、「ABA」の順で、プロセス・ベースド・セラピー等にも及んだ。

研修後アンケート（5 段階の平均値）では、必要性が ABA 研修 4.60、関係フレーム理論研修 4.67、HDML 研修 4.83 と高く、わかりやすさはそれぞれ 4.60、4.56、4.33 であった。HDML 研修は必要性が最も高い一方、わかりやすさは最も低かった。自由記述では「具体例が理解につながった」「実務での活用イメージが持てた」「苦手意識が軽減された」等の意見が見られた。

考察

本取り組みは、研究所が実施する体系的な支援技術研修を補完し、現場実践への橋渡しを目的として実施した。研修では現場事例を用いて理論を再整理し、個別相談やデモンストレーションでは知識を具体的な支援行動へと落とし込む機会を提供した。アンケート結果や自由記述からは、現場文脈に沿った具体例を用いることが理解促進に寄与し、支援技術の活用イメージ形成や心理的ハードルの軽減につながった可能性が示唆された。また、個別相談やデモンストレーションは、研修内容を実践へ結び付けるための支援として有効に機能したと考えられる。今後は、支援スキル確認シートの進捗状況や実際の活用事例を分析し、支援技術を組織内の共通言語として定着させるための効果的な支援方法について検証していきたい。

参考文献

小倉玄：職場定着サポートのための支援技術向上を目的とした段階的な社内研修の取り組み，第 33 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，2025.